

ふれあい つながり かわら版

ブランドカリキュラムの中核を担う 「総合的な学習の時間」の充実に向けて

令和4年度末に、小中一貫教育推進担当の先生方を中心に、全中学校ブロックで、ブランドカリキュラムが作成されました。ブランドカリキュラムは、予測困難な社会の変化に対応し、未来を切り拓く子供たちを保護者や地域の人々と育むための、学校や地域の実態に応じた「目指す子供像」の具現化に向けた、9年間を貫く特色ある教育課程です。

本年度は、ブランドカリキュラムに基づいた実践を各ブロックで進めているところですが、今号では、カリキュラムの中核を担う「総合的な学習の時間」の実践を紹介します。



的形小学校3年生 「的形の自然の魅力を見つけよう」

授業者の先生は、的形小の児童にとって身近な「里山」を学習材(財)として取り上げました。里山の課題を考える活動を通して、「的形の自然を守るために自分たちには何ができるのか」を探究していく単元計画となっていました。

里山について調べていく中で見つけた課題をもとに3年生の自分にてきるこ

「的形の自然」の魅力を伝えるための活動	「的形の自然」の魅力を伝えるための活動	「的形の自然」の魅力を伝えるための活動	「的形の自然」の魅力を伝えるための活動
「的形の自然」の魅力を伝えるための活動	「的形の自然」の魅力を伝えるための活動	「的形の自然」の魅力を伝えるための活動	「的形の自然」の魅力を伝えるための活動

P.12

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



城乾小学校6年生 「わくわく未来探究」職業体験を通して

とはないかを考え、グループで話し合いを進めました。里山保全の取組を行っている「里山会」の方々の出合いが、「自分も里山に深く関わりたい。」「その人たちに近づきたい。」という里山への愛着を児童が抱くきっかけとなりました。単元の最後には、里山について調べたことや自分たちができることを発表することは決まっていますが、誰に向けてメッセージを発信するかは、授業を進めていく中で、児童とともに検討していくところに総合的な学習の時間の醍醐味を感じました。

将来の夢ややりたい仕事を考える活動を通して、自分の長所や特性を見つめ直していく学習です。城乾小では、保護者の協力を得て、様々な職種の方をゲストティーチャーとして迎え、ワークショップ形式で、働いている大人との交流をしています。

授業は「仕事にとって大切なこととは何か考えよう」というめあてで展開されました。まず、自分が大切にしたいことを考え、その後グループで意見交流を行いました。意見交流の際には、各教科等で学んだことを生かして、自分と友達の間で話したいことを、関連付けながら話し合いを進めたり、画用紙や端末の画面を見せながらプレゼンを行ったりと、多くの児童が自信をもって発表していました。

次の時間には、実際に働いている人から、話を直接聞く



仕事にとって大切なことを考え交流する



自分たちにてきることを話し合う

別所小学校5年生 「子どもMANZAIで笑顔を届けよう」

「すべての人々がしあわせにくらす町ってどんな町なのだろう」という探究課題を設定し、単元づくりが行われました。「児童の実態」「学校の課題」「地域の様子」に「教員の思いや願い、期待する児童像」を重ね合わせて、授業者の先生は、「漫才(MANZAI)」を学習材(財)として取り上げました。

授業は「保護者と児童の審査結果の違いをグラフや感想から読み取ることで、それぞれのMANZAIのよさが分かり、自分達のMANZAIを進化させる」ことを目標に展開されました。授業の進行や黒板記録を児童に任せ、先生は前に出ずにアドバイザーに徹することで、児童は、自分達が授業を作っていること意識することができました。進行役の児童は、振り返りで「大変だったけど、楽しかった。」と感想を述べました。また、「自分たちに足りないことを考えることができた。」「自分の思っていることとみんなが考えているのが同じだった。」という感想を述べる児童も見られるなど、どの児童も喜んで授業に取り組んでいました。



児童が自走し、伴走者として児童に寄り添う先生

総合的な学習の時間は、自分が夢中になれることを探究したり、与えられた探究課題に夢中になったりすることが出来る時間です。今回紹介した実践では、授業者の先生とともに保護者や地域の方も、児童と一緒に探究に取り組んでおられました。ぜひ参考にしてみてください。